

皆さんこんにちは、ご紹介いただきました石川でございます。本日は、「新居浜西高等学校同窓会近畿くすのき会創立30周年、母校新居浜西高等学校創立100周年記念第22回総会」にお招きいただき、新居浜市の将来展望等について語らせていただく機会をいただきましたこと、大変ありがたく光栄に存じます。皆様方におかれましては日頃から市政の推進に格別のご理解とご協力を賜っておりますことに対しまして、この場をお借りいたしまして、厚くお礼申し上げます。



ここに映し出しておりますのは、昨年建て替えが完了いたしました新居浜西高等学校の本館でございます。耐震設計をするということで県の方で建て替えをしたところでございます。

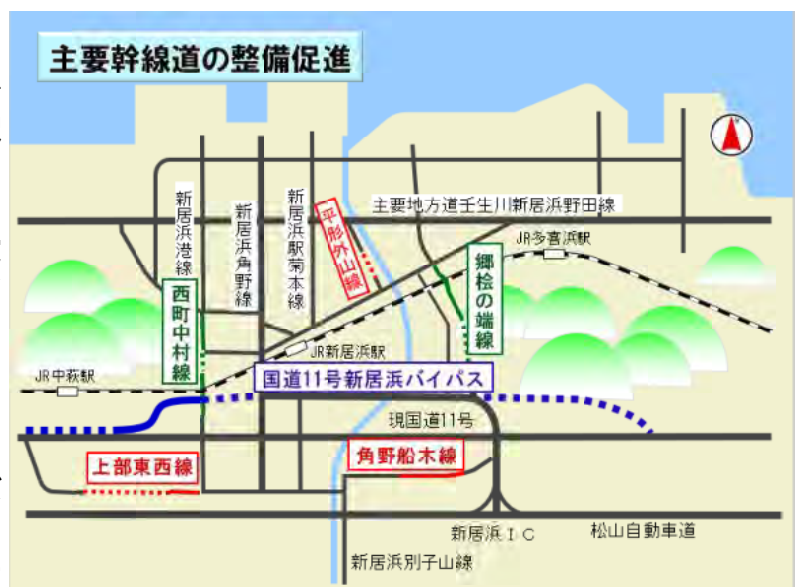
さて、私自身、昨年11月の市長選挙におきまして、市民の皆様方からの温かいご支援とご理解を賜り、再び市政を担当させていただくことになりました。振り返りますと、1期目の4年間は、「経済の再生」「コミュニティの再生」そして「市役所の再生」の3つの再生と、「健康都市づくり」「教育力の向上」の2つの課題を市政運営の柱に掲げ、公約の実現と地域再生への取り組みを進めてまいりました。その結果、公約に掲げました各種政策につきましては、一定の成果を上げることができたのではないかと自負いたしております。

2期目のスタートでございますが、平成29年度は私の第2ステージとして、基本政策である「安全で快適に暮らせる都市の実現」をはじめとする7つの夢の実現に向けて、防災・減災対策の強化、企業誘致及び企業留置の推進、子育て支援の充実、芸術文化・スポーツの振興、地域コミュニティの再生などの20の重点施策を掲げております。その中でも、本年度におきましては 近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備えた防災・減災対策の強化、 地方創生を成し遂げるための「新居浜市総合戦略」の確実な推進、「市制施行80周年記念事業」及び 「笑顔つなぐえひめ国体」の円滑な実施の4点を今年度の重点課題として考えているところでございます。

それでは、「これまでの取り組み」と「今後の取り組み」につきまして、簡単にご説明させていただきます。最初に、基本政策1「安全で快適に暮らせる都市の実現」でございます。「これまでの取り組み」といたしましては、国道11号バイパスを始め主要幹線道路の整備促進、駅前広場、ホテル誘致等の駅周辺施設の整備、神郷公園等の都市公園整備、デマンドタクシーの本格導入、市営住宅の計画的建替えと耐震化の促進、総合防災拠点施設の建設着手などがございます。

「今後の取り組み」につきましては、まず、主要幹線道路の整備促進についてでございます。国道11号バイパスについては、船木から大生院までの9.3kmについて、国においてバイパス工事を実施しております。

その内、実線のところ、泉川・中萩工区の一部4.4kmは既に開通をいたしております。



今現在工事をしていただいておりますのは大生院工区の1.5kmは、来年度開通の見通しとなっております。引き続き全区間の早期整備を要望しているところであります。

また、西之端から滝の宮に至る県道「西町中村線」、これにつきましてはJRの立体交差、現在、県のほうでJRと協議をおこなっていただいております。もう一つ新居浜インターから郷に至る県道「郷松の端線」このところは1.4kmがまだ未開通でございます。清掃センター進入路からサッカー場進入路までの600mについては、今後国体がグリーンフィールドで行われますので、そこについては国体までに完成するというので、残り800mについて現在現場説明等が行われているところでございます。早急な整備についてまた要望してまいりたい、こんな風に思っております。

次に市道についてですが、新居浜インターから山根公園に至る「角野船木線」については、先般3月に開通いたしました。従いましてインターからマイントピアに行くのが非常に便利になり、約10分間の短縮がはかれるようになりました。これがその角野船木線の道路の状況でございます。



次に新居浜駅周辺施設の整備についてでございます。土地区画整理事業に引き続き、南北自由通路（出逢いロード）や駐車場など周辺施設の整備を行って参りましたが、南口広場及び人の広場に併せ、中核施設である総合文化施設（あかがねミュージアム）が平成27年に完成したことで、長年に亘り取り組んできました新居浜駅周辺整備事業は、一応完了をいたしました。土地区画整理事業を平成10年から平成23年にかけて約260億円の費用をかけて実施いたしました。それが完成したわけでございますが、新居浜に戻られて一番大きく変わったと感じていただけるのが駅前広場だと思います。整備前は交通が輻輳（ふくそう）し、歩行者と車が混在して大変危険な状況でした。駅前広場が整備されたことにより歩行者、車の分離が行われ、安心して快適な歩行者動線が出来上がり、安全性、利便性、快適性の向上が図られたのではないかと考えております。

より歩行者、車の分離が行われ、安心して快適な歩行者動線が出来上がり、安全性、利便性、快適性の向上が図られたのではないかと考えております。

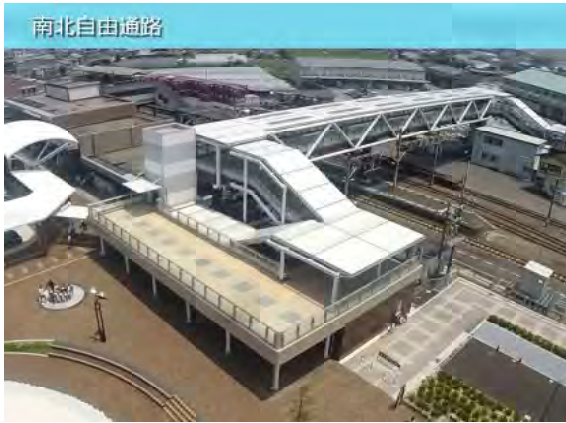
これが新居浜駅を斜め前から見た状況でございます。こういう感じになっております。駅前広場に別子銅山の煉瓦をモチーフにデザインしたシェルターを整備しました。駅舎や駅前広場から駅前街区との連続性を確保し、雨天時にも快適に移動できるようになりました。

駅前広場（人の広場）です。平成27年7月から供用開始しており、中央には小規模なイベントが可能な円形広場を設けるとともに、人が集い、出会い、安らげる空間づくりを目指し、親水施設、小さいですが噴水等もございまして、ベンチ、パーゴラなどの休憩施設を配置しております。また、新居浜らしさを表現するため、「あかがねの恵み、希望」をテーマに全国公募で選出したモニュメント『歓迎の門』を設置いたしております。



南北自由通路（通称「出逢いロード」）です。もともと幅員2mほどの跨線橋がありましたが、老朽化していたことから、平成24年から平成26年の約3年で整備しました。幅員6mで整備し、南北両側にエレベーターを設置。自転車も通行可能となっております。

にぎわいの場を提供するため、踊り場兼用の展望デッキを設置して、展望デッキの下側になりますが、多目的イレを含む公衆トイレも設置しています。駅前駐輪場は、放置自転車の防止、駅利用者の利便性の向上を図るため、鉄骨2階建ての駐輪場を整備しました。収容台数は、自転車839台、バイク42台が駐輪できます。南口広場につきましては、駐車場（20台）・駐輪場（自転車79台、バイク10台）を配置した交通広場として、



平成27年6月に供用を開始しております。シンボルロードの「県道 新居浜駅港町線」の整備状況です。整備前は歩道が3mほどでしたが、片側約7.7mの歩道を確保し、総幅員27mで整備しました。広幅員の歩道は、歩行者と自転車との分離を図り、歩道内にベンチや休憩所を設置し、隣接してポケットパークの整備も行いました。駅前広場とつながるシンボルロードにも、「別子銅山の歴史と文化が息づく空間づくり」をテーマに、全国公募で選定したモニュメントを6基、設置しております。

総合文化施設（あかがねミュージアム）は、平成27年7月18日にオープンし、市内外から多くの方々にご来場いただいております。お陰様で、平成29年6月末で、延べ49万3千人の方にご来館いただいているところでございます。

今年は市制施行80周年の記念すべき年でございますのでこのにおいて各種の記念事業を実施することといたしております。

総合文化施設の概要でございますが、2階には「美術館」、1階には「太鼓台ミュージアム」、「にいほまギャラリー」、そして地下1階には250人収容のホールができております。



続きまして民間施設の誘致エリアに東横イン（14階建て、246室、延床面積約6,100㎡）が建設され、7月25日にオープン予定となっております。



お聞きするところによりますと、オープンから1か月の間は、シングル泊が税抜きで通常5,500円のところを、税抜きで3,950円のサンキュー・ゴメンネ・キャンペーンを実施するとのことです。新居浜にお越しの際はぜひご利用いただければと存じます。

「今後の取り組み」といたしましては、駅南地区の整備方針の検討でございます。市民の皆さんから、様々なご意見をお聞きするとともに、将来の新居浜市を見据え、多方面から検討を進めて参りたいと考えております。

次に、総合運動公園の構想についてでございます。これまでは国領川河川敷公園などを中心に整備してまいりました。特に、国

領川河川敷公園につきましては、市民スポーツ、ジュニアスポーツ、高齢者の健康増進という形でトイレ、水飲み場、休憩場などの便益施設、休憩施設など、平成20年度から23年度までの4か年をかけて整備いたしました。これは四国では新居浜が随一ではないかと自負いたしております。しかしながら、建設当時は、十分な規模・機能を有していたものの、市民一人ひとりのライフスタイルに応じたスポーツへの取り組み方が多様化し、この河川敷の隣にあります総合体育館、プール等も随分老朽化をいたしております。そこでなんとか総合運動公園も、という声が非常に多くございました。総合運動公園整備につきましては、今年3月に「総合運動公園構想」を策定いたしました。その結果、平尾丘陵地に総合体育館、陸上競技場、野球場などの施

総合運動公園構想の策定



設を整備しようという構想を一応取りまとめました。つきましては実現化に向けて検討していきたいと思っております。

次に、防災・減災対策の強化についてであります。近い将来発生が懸念される南海トラフ巨大地震に備えるため、市役所西側の旧郷土美術館、北消防署庁舎の一部を取り壊し、その跡地へ体験型防災センターの機能を備えた消防庁舎、更に被災した際のライフラインの早期復旧を図るため、水道、下水道機能を集約した総合防災拠点施設を建設することにいたしております。現在、解体工事などの周辺環境整備を行っており、2019年（平成31年）度の秋に供用開始の予定でございます。

新居浜市災害・防災情報伝達システム（コミュニティFMの開局）については、このたび、新居浜市が総務省消防庁の「災害情報伝達手段等の高度化事業」実証団体に選定をされました。防災情報、災害情報を住民に的確に伝達するための各種システムの中で、迅速で確実な伝達手段の一つが、コミュニティFMの利用でございます。コミュニティFMは、通常時は地域密着メディアとして、行政や各種団体と連携して、地域の産業・行政情報などを放送することができます。そして、災害時など有事の際には、防災情報を優先的に放送する、ものでございます。本年秋頃までに、あかがねミュージアム内にコミュニティFM設備を整備し、試験放送を行い、来年4月に開局することとしております。

続きまして、基本政策2「活力ある産業活動の実現」についてでございます。「これまでの取り組み」といたしましては、住友各社とのトップミーティング開催等による連携強化、リブドゥコーポレーション(株)、プライムデリカ(株)の企業誘致、企業立地促進条例・中小企業振興条例の改正、内陸工業用地造成・分譲、新居浜ものづくりブランドの認定、着地型旅行商品の開発、マイントピア別子温泉リニューアルオープンなどがございます。

「今後の取り組み」につきましては、まず、「住友各社との連携強化」に向けての取組といたしまして、市長就任以来、地元住友6社と商工会議所、市による経済懇談会を毎年2回開催しております。

また、毎年中村知事とともに、住友各社の本社を訪問しトップミーティングを開催するなど情報交換を密にし、連携強化に努めてまいりました。

こうした中、昨年、住友化学(株)のメチオニン製造設備の増設をはじめ、住友金属鉱山(株)のニッケル酸リチウム電池の増産、住友重機械工業(株)の三菱重工業(株)のクレーン事業継承、住友共同電力(株)の炭酸ガス製造事業など、住友各社が、新居浜市内において、大型の設備投資を決定していただきましたことは、本市の活性化に向けて大変ありがたく、心強いニュースでございました。

さらに今年5月末には、住友化学株式会社、住友共同電力株式会社、四国電力株式会社及び東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社の4社による住友化学愛媛工場内での液化天然ガス(LNG)基地事業に関する共同検討について発表がございました。本市といたしましても、これらの事業が、円滑に推進されますよう、最大限の支援に取り組んでまいります。

住友各社との連携強化			
会社名	内容	投資額	期間
住友化学(株)	メチオニン増産	約500億円	～H30
住友金属鉱山(株)	ニッケル酸リチウム増産 (銅鉱工業 採掘事業)	約1.80億円	～H30
住友重機械工業(株)	住友重機械製造システム(株)が三菱重工業(株)子会社のクレーン事業を承継(雇用増約80人)		
住友共同電力(株)	炭酸ガス製造事業	約30億円	H28～H30
住友化学(株)、住友共同電力(株)、四国電力(株)、GES(東京ガス系列)	住友化学愛媛工場内での液化天然ガス(LNG)基地事業に関する共同検討		H33 ガス送出開始予定

次に、「新居浜ものづくりブランドの創出・支援」として、本市地場産業が持つ技術や製品を「新居浜ものづくりブランド」として認定し、販路開拓・受注拡大を支援することとしております。

これまで、37社49技術・製品を、「新居浜ものづくりブランド」として認定しており、愛媛県の「すごデータベース」に登録された製品とともに県とも連携しながら、トップセールスを初め、見本市、展示会への出展支援を行っています。なお、見本市・展示会への出展での受注額は、累計で8億8千万円を超えるなど、着実に成果を上げております。

また、本市産業の中核を担う製造業の現場で働く皆さんに脚光をあてたテレビ放映を行い、業界全体のイメージアップを図り、人材の確保につなげるため「製造業イメージアップ事業」を実施しています。

昨年度から地元のテレビ愛媛さんに5分間ほどの放送を毎週1回、各企業を取り上げていただいております。

この放送を見て企業の就職を希望された声も聞いております。また、「新居浜市ものづくりマイスター認定事業」では、ものづくりの現場で卓越した技術を有し、優れた指導力がある人を「新居浜ものづくりマイスター」として認定、顕彰し、技術尊重の機運の醸成を図っております。これにつきましてもすでに5名の方を認定しているところでございます。次に「新居浜市観光振興計画の策定」についてでございます。別子銅山の近代化産業遺産群や太鼓祭りを活用した観光振興による、交流人口の拡大を図るため、本市が有する観光資源の魅力や課題を洗い出し、本市における観光のテーマや今後の方向性、目指すべき将来像を定めるとともに、市民や事業者、関係機関、行政など、それぞれが担うべき役割を明かにした、観光分野における具体的戦略となる「新居浜市観光振興計画」を策定することといたしております。



昨年4月にマイントピア別子温泉をリニューアルオープンしました。大幅な赤字が続いていた温泉施設について、温泉部分を縮小して、新たに岩盤浴や炭酸泉などを設置するとともに、子供用遊戯施設を併設し、子どもからお年寄りまで3世代で楽しむことができる施設にリニューアルいたしました。お陰様で、温泉、遊戯施設とも、多くのお客様にご利用いただき、順調に推移いたしております。

婚式ツアーを開催しました。52組の方に御応募いただき、厳正な抽選を行いまして、10組32名の方に銅の里新居浜で銅婚式を祝っていただきました。

今後、今回のツアーをモデルコースとした着地型旅行商品の企画・造成に取り組み、新たな観光客の誘客にも取り組んでまいります。参加者の中心となりますのは、30代、40代の子育て世帯でありますことから、本市への移住・定住にもつなげてまいりたいと考えております。



続きまして、基本政策3「地球にやさしい暮らしの実現」でございます。「これまでの取り組み」といたしましては、新居浜市地球温暖化対策地域計画の策定、「新居浜市地球温暖化対策活動宣言2016」、ダンボールコンポストの普及促進、スーパーでのレジ袋無料配布中止、上水道の安定供給（新山根配水池整備、別子山地区新水道施設供用開始）、新居浜市自転車ネットワーク整備基本計画の策定などがございます。

「今後の取り組み」につきましては、まず、ごみの減量と3R（（スリーアール）：Reduce（リデュース：発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル））の推進につきましては、ごみ分別の定着と資源ごみの集団回収等を推進するとともに、家庭ごみの一部有料化の具体的な検討を進めてまいります。また、地球温暖化対策として、平成27年3月1日から、市内大手スーパー全店舗で、レジ袋の無料配布が中止されております。市におきましても、レジ袋削減に向けた取り組みについて、市民の皆さんのご理解・ご協力が得られるよう、積極的に支援し、さらなる拡大を目指してまいります。

「水素社会実現に向けた取組」では、平成27年度に設置した「新居浜市水素社会推進協議会」を引き続き開催し、産学官金連携により、水素社会の実現に向けた調査研究に取り組みます。

また、地球温暖化防止、自然エネルギー利用への意識啓発と促進のため、家庭用燃料電池、蓄電池の設置に対する補助を実施します。

基本政策4「健康で、生きがいのある暮らしの実現」でございます。「これまでの取り組み」といたしましては、各種がん検診無料化、新若宮保育園の開園、医療費公費負担制度の拡充（中学卒業まで）、多子世帯への経済支援（保育料等の第3子無料化拡大、給食費の第3子一部無料化）、健康長寿地域拠点づくり事業

の開始、重度障がい者（児）タクシー利用助成事業開始などがございます。

まず、「がん検診の無料化」につきましては引き続き実施し、がんの早期発見・早期治療によるがんによる死亡者の減少を図っていきたいと思っております。

「子育て支援の充実」では、「小中学生に対する医療費助成の充実」として、昨年10月から、すべての医療費の助成対象を中学卒業まで拡大し、医療費負担の軽減による子育て支援の拡充を図りました。

また、休日夜間急患センターの小児科について、昨年4月から日曜日の18時から21時までの、夜間診療を開始し、空白の時間帯を解消いたしました。

さらに、「多子世帯の学校給食費に対する支援」では、小中学生が3人以上いる家庭の3子以降の給食費を無償化し、（所得制限の要件を満たす）多子家庭の経済的負担を軽減いたしました。

今後とも引き続き、これらの施策を実施し、「子育て支援の充実」を図ってまいります。

次に、企業城下町版CCRCについてです。CCRCとは、首都圏等に住む元気な高齢者が、自らの希望に応じて地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るコミュニティづくりのことです。

新居浜市に勤務経験のある住友各社のOBなど新居浜市にゆかりのある人を主たる対象者とする全国初の企業城下町版を考えており、住友各社をはじめ関係団体等で構成する新居浜版CCRC推進協議会を設立し、昨年度（平成28年度）に「新居浜市企業城下町版生涯活躍のまち基本構想」の策定したところでございます。

今後は、この構想を踏まえ、関係者との協議を進め、候補地選定や、事業主体の決定に向けた取組を推進し、生涯活躍し続けることができる持続可能な新たなコミュニティの再創造を目指したいと考えております。

基本政策5は「市民の力が育まれ、継承される社会の実現」でございます。「これまでの取り組み」といたしましては、あかがねミュージアム開館、放課後まなび塾開設、ユネスコスクール全校加入・ESDへの取組、別子中学校学び創生事業、英語教育の充実（ALTの増員、英語キャンプの実施）、新居浜東高等学校に「健康・スポーツコース」開設、新春スペシャルドラマ「百年の計、我にあり」放送、そして、本市出身の井川香四郎氏執筆による別子銅山小説「別子太平記」の出版などがあります。

「今後の取り組み」については、まず、特色ある高校教育についてでございます。昨年度から、県立新居浜東高等学校に健康スポーツコースが開設され、特に部活動の取組、成果を重視した選抜が実施されております。

これまで中学生の優秀なスポーツ選手が市外に流出していたことから、これを機会に、市内の高校に進学し、新居浜から甲子園など全国大会を目指してもらいたいと思っております。

また、本年度から新居浜西高（普通科）の「理科類型」を「理数医療類型」に変更し、医療現場への訪問や職場体験などを拡充し、より発展的な学習に取り組んでおります。

新居浜南校（総合学科）には、「地域共創系列」を新設し「ふるさと愛媛学」、「地域共創実習」、「地域商品開発演習」など新たな科目を開設し、地域貢献型の学校づくりを行っております。

「医師確保のための奨学金貸付制度の創設」については、先ほどの西高の「理数医療類型」の導入とも関連しますが、市内の医師従事者が減少傾向の中、救急医療体制の維持、確保を図るため、市内の指定医療機関で一定期間勤務することを条件に、返還免除の奨学金貸付制度を新たに設けます。

次は、「放課後まなび塾」についてです。これは、児童の学習習慣の定着と学力向上を目指して実施している事業です。小学4年生から6年生までの希望する児童に対して、教員OBが学習支援員となり、放課後4時


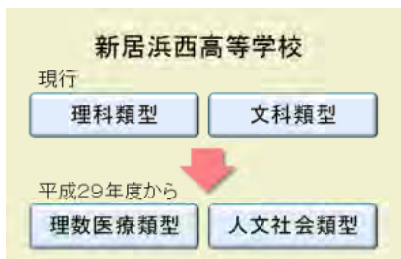
がん検診の無料化			
<新居浜市がん検診>			
検診	料金	検診内容	平成28年度
胃がん検診	無料	バリウム	← 1,200円
肺がん検診	無料	レントゲン	← 500円
大腸がん検診	無料	便2日分の潜血検査	← 500円
前立腺がん検診	無料	血液検査	← 2,160円
子宮頸がん検診	無料	* 昨年度検診者は受けられません	← 1,000円
乳がん検診 (マンモグラフィ)	無料	* 昨年度検診者は受けられません	← 2,000円

※除く(6,828円)は補助です。

5 市民の力が育まれ、継承される社会の実現

これまでの取り組み

- あかがねミュージアム開館
- 放課後まなび塾開設
- ユネスコスクール全校加入・ESDへの取組
- 別子中学校学び創生事業
- 企業小中連携科グローバル教育
- 英語教育の充実（ALTの増員、英語キャンプの実施）
- 新居浜東高等学校「健康・スポーツコース」開設
- 新春スペシャルドラマ「百年の計、我にあり」放送
- 別子銅山小説「別子太平記」出版
- 企業城下町版CCRC

から6時までの間、宿題や予習、復習など、児童が自主的に行う学習をサポートしています。

現在、8校で実施しており、今後、条件整備が整った学校へ拡充を図り、全ての校区にこの事業を広げていきたいと考えております。

次に、別子中学校学校び創生事業についてでございます。昨年4月に県内の公立中学校で初めて、英語や数学など学力重視の少人数制の教育課程を導入した別子中学校を開校いたしました。

現在、2年生5名（男3、女2）、1年生5名（男2、女3）の10名が新居浜市内から地域バスで通学し、恵まれた自然環境の中で、年間100時間以上の放課後学習で、英語や数学の知識を伸ばすこととしております。

なお、現在寄宿舎の建設を進めており、来年4月からは全員寄宿舎に入る予定でございます。

児童生徒の基礎的な学力の向上と定着を図るため、平成25年度から新居浜市独自の標準学力調査を実施し、客観的な学力の把握・検証を行い、指導方法の改善に役立てております。

次に、生きた英語教育の推進についてでございます。

英語力の向上を図るため、これまで3名のALT（外国人英語指導助手）を、昨年度から8名増員して11名体制とし、各学校へ派遣いたしております。

また、平成27年度から、東平の銅山の里自然の家において、1泊2日の東平英語キャンプを開催し、中学生、英語教員、ALT、大学生等と合宿生活を送りながら、英語でコミュニケーションすることの楽しさ、すばらしさを体験することとしております。

参考	平成27年度	中学生49名	合計105名
	平成28年度	中学生64名	合計120名

「ユネスコスクール」の認定についてです。平成26年10月に17校が認定されたのに続き、平成27年3月には9校が新たに認定されました。これにより人数の少ない別子小中学校を除く、新居浜市内の小中学校はすべて「ユネスコスクール」となりました。「ユネスコスクール」とは国連が提唱する「持続可能な開発のための教育（ESD）」の趣旨に則して、学習・活動を行う学校を言い、全市的な規模で認定されるのは四国では初めての事となります。

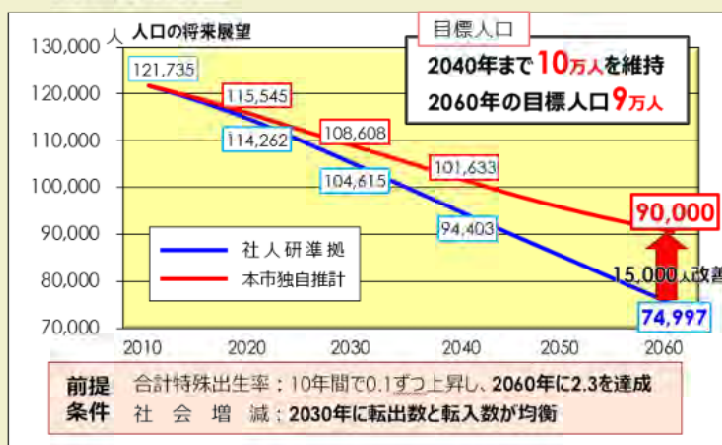
今後も各学校の特色を活かした、コミュニケーション能力や思いやりの心を醸成する活動と、ふるさと・環境・国際・福祉・環境などのテーマにした学習を行うこととしております。

基本政策6は、「自立・連携する協働社会の実現」でございます。「これまでの取り組み」といたしましては、地域コミュニティ再生事業交付金制度の創設、防犯灯LED化、配偶者暴力相談支援センターの設置、花いっぱいのみちづくり事業の実施、女性活躍等推進事業所認証制度開始などがございます。

「今後の取り組み」につきましては、地域コミュニティの再生でございます。自治会加入率が低下する中、地域住民がお互いに助け合い、支え合う社会の構築をめざし、引き続き地域コミュニティ再生事業交付金を活用して、コミュニティ活動の充実・活性化を図ってまいります。また、連合自治会と連携して加入促進活動を行うとともに、自治会機能を強化することによって自治会加入率の向上に取り組んでまいります。



人口の将来展望



基本政策7は、「効果・効率的な市役所の実現」でございます。「これまでの取り組み」につきましては、政策懇談会の設置、職員の意識改革（人事評価結果を勤勉手当の成績率に反映）、ワンストップサービスの拡充（1階フロア改装等）、市役所敷地内コンビニ誘致などがございます。

市民の皆さんの意見を市政に反映するため、

各界各層の代表者で構成する「政策懇談会」を引き続いて実施するとともに、年代・職業別政策懇談会を実施し、幅広い市民の皆様からのご意見を市政に反映してまいります。

市制施行80周年という節目を迎える今年、20年後の市制施行100周年、さらにはその先のまちの未来をつくる新たな取り組みとして、市民の満足度・誇りを高めるとともに、対外的な新居浜市の認知度、知名度を高めるため、「Hello! NEW新居浜」を合言葉に、各種事業を実施してまいります。

これまで、新居浜市はいつの時代も「新しい」を受け入れ、チカラにしてきました。それが、新居浜の魅力であると、私は思っております。「新居(にい)」という地名を起源に持ち、別子銅山の開坑以来、鉱山業から林業、機械工業、化学工業等の新しい仕事生まれ、そこで働く新しい人々を迎え入れ、発展してきたまちであります。そのような歴史を誇りとし、これからの新居浜は、これまでの魅力を磨いて新しくする『再発見』、今までにない新しい魅力を生み出す『創造』、この2つの「新しい」をチカラに変えて、さらに魅力にあふれた、もっとワクワクする「新しい」新居浜市を目指してまいります。

「ロゴマークのデザイン」は、風船をモチーフに市民一人ひとりの想いがふくらみ、さらに大きい想いになるようにというメッセージを込めております。

「鮮やかな水色」は、空と海と未来の新居浜をイメージし、新しい魅力を生み出していこうという想いを込めております。

市民の皆様と共に、さらなる新しい魅力や価値を高めていくことで、「住みたい、住み続けたいあかがねのまち」の実現を目指していきたく思っております。

地方創生に向けた取り組みとして、平成27年末に新居浜版「人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定いたしました。人口ビジョンは、人口の現状分析と将来展望を定め、総合戦略は、人口ビジョンを実現するための平成27年度から31年度の5年間の政策目標と具体的施策を定めたものでございます。新居浜市の人口の将来展望については、「国勢調査」の結果を基に、国立社会保障・人口問題研究所が推計したもので、現状のまま推移すると本市の人口は、今から約40年後の2060年には、4割近く減少し、約75,000人以下になると推計されています。

このような人口減少問題に対応するため、一昨年末に策定しました「新居浜市人口ビジョン」では、本市将来人口を、子育て支援や雇用創出、定住促進などの効果的な施策を講じることにより、2040年まで10万人を維持し、2060年に推計値よりも約1万5千人改善した9万人を維持することを目指しております。先ほどの人口ビジョンを達成するために、4つの基本目標を掲げ、様々な施策を積極的に展開し取り組んでいるところでございます。

総合戦略では、目標人口の達成と「住みたい、住み続けたいあかがねのまち」の実現を目指して、「雇用の創出と地元産業の振興」、「定住人口、交流人口の拡大」、「子育て支援の充実と健康長寿社会の実現」、「広域連携と地域特性を踏まえたまちづくりの推進」を基本目標に定め、ものづくり産業の振興と住友各社との連携強化、全国初の企業城下町版CCRCの導入、別子銅山近代化産業遺産を活用した観光の振興、さらには子育て支援の拡充、3市連携の推進などの各種施策を展開しております。

そして先ほどから言っております市制施行80周年の記念事業でございます。「つむぐ つなぐ 未来へ人へ」をテーマに掲げ、過去から未来に向けて、一本の糸を紡ぐように、本市発展の礎を築いてこられた先人の偉業や、脈々と受け継がれてきた伝統や文化を再認識するとともに、将来の新居浜市への夢や希望を描く契機となる、各種記念事業を実施してまいります。

「東京富士美術館コレクション-美の東西-」と、「百年の計我にあり」で主演をしていた俳優の榎木孝明さんの「水彩画展」を同時に開催し6月25日に終わりました。これにつきましては25000の方にご来場いただいております。そして本日7月8日から近藤勝也さんという新居浜市出身のジブリの動画家がおられますけれども、その方の作品500点を展示していただく「ジブリの動画家近藤勝也展」を開催



しているところでございます。

そしてもう1点、新居浜発の映画製作を今取り組んでいるところでございます。これにつきましてはお手元に資料も入れさせていただいておりますが、現在、商工会議所の会頭を実行委員長として協賛金の募集を行っております。つきましては何か縁がございましたら一つご協力をお願いしたいと思っております。

そして新居浜と言えばやっぱり太鼓祭りの統一寄せをしなければならないということで、今年のお祭りは16, 17, 18、月火水でございますので、15日にイベントとしてやろうという風な議会筋の声がございます、日曜日に川西、川東、大生院の太鼓台をあかがねミュージアム駅前に集めることにいたしております。そして上部地区につきましては山根グランドで昼間の統一寄せと夜ナイターでの統一寄せ、2部構成でやるという風なことで今現在進んでいるところでございます。このような様々な記念事業を実施することで市民の皆様、本市出身の皆様、そして新居浜を訪れた全ての皆様に、新居浜の良さを認識していただき、新居浜に誇りを持っていただくことを強く期待しております。

いよいよ今年は、「愛顔つなぐえひめ国体」が開催されます。本市では、ウエイトリフティングが文化センター、セーリングがマリナーパーク、少年男子サッカーがグリーンフィールド、それから市営球場で成年男子軟式野球の4競技が開催されることになっております。愛媛県選手の活躍は勿論ですが、全国から訪れる選手役員等を温かくお迎えし、「新居浜に来てよかった、また来たい」と思っただけのような、すばらしい大会にしたいと考えております。

市制施行80周年記念事業の実施

- 全国選抜高校生溶接技術競技会 in 新居浜 8月5日
- 宝くじスポーツフェア ドリームベースボール 9月10日
- 市制施行80周年記念式典 11月2日 (記念植樹) 11月3日 (記念式典)
- 第59回 市民マラソン大会「あかがねマラソン」 1月14日
- 市民参画公演「10歳のわたしとぼく ～お芝居と歌とダンスで綴る～」 8月27日
- 新居浜太鼓祭り 市制施行80周年記念イベント 10月15・17日
- ふるさとお宝探検大物産展 11月25・26日
- (仮称) あかがね産業博 3月 (予定)

「ふるさと納税」

最後に、ふるさと納税についてのお願いをさせていただきます。皆さんもテレビや新聞で全国で返礼品競争が過熱しているとの報道を最近ご覧になっていると思いますが、この制度は、本来自分を育ててくれたふるさとへ貢献するために導入された制度でございます。

新居浜市でも「ワタリガニ」や「えび天」などの返礼品を用意しておりましたが、昨年10月に返礼品を大幅に見直すとともに「楽天サイト」での手続きを開始した結果、多くの寄付をいただいております。

ちなみに、平成27年度の寄付が822件、3,589万円であったものが、平成28年度は12,408件、3億1,618万円と10倍近くになったところでございます。

ふるさと納税

ふるさと納税(ふるさと新居浜応援寄附金)のメリット

1. 新居浜市の特産品を贈呈します。

寄附額 1 万円以上の方が対象になります。

2. 寄附金の使い道が選べます。

8 つのテーマから、寄附金の使い道をお選びいただけます。

3. 税金の還付・控除が受けられます。

寄附金額に応じて、所得税・個人住民税の還付・控除が受けられます。



今年の4月には国から返礼品の率を下げるようにとの通知を受けており、見直しを現在検討しておりますが、今のところは非常にお得な返礼品のままとなっております。

例えば3万円していただくとアサヒのスーパードライが60本買えるとか、またそういうものだけでなく皆さんに切実な問題として、お墓まいりに帰省できない方用に、代わりに墓地の清掃や花しばを備えるような返礼品も用意していますので、是非みなさんもふるさと新居浜へのご支援を、よろしく申し上げます。

以上、「これまでの取り組み」と「今後の取り組み」についてご説明をさせていただきました。

私は、市政運営の舵取り役として市民の皆様の、期待と信頼にしっかりとお応えするため、第2ステージにおける市政運営の基本姿勢といたしまして、次の2つの視点をもって取り組んでまいりたいと考えております。

まず、1点目は、3つのONEでございます。今一度、新居浜市の特性や強みを見つめ直し、市民の皆様が故郷に愛着と誇りをもてるよう、新居浜にしかない「オンリーワン」、新居浜が一番「ナンバーワン」、新居浜が初めて「ファーストワン」の3つの「ONE」にこだわった取り組みを実践し、新居浜市の魅力を全国に発信して参りたいと考えております。

2点目は、スピード感を持った行政運営でございます。社会環境の変化が著しい今日、スピード感を持った行政運営を心掛け、各種施策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

この2つの視点を念頭に置き、これまで以上に市民・団体・事業者と行政が一体となった「チーム新居浜」で、市民の誰もが幸せを実感できる

「笑顔輝く新居浜市」の実現に向け全力で取り組んで参る所存です。

皆様方の今後一層のご支援、ご協力、お力添えを賜りますようお願いいたします。私の説明を終わらせていただきます。

ご清聴ありがとうございました